

景

況

調

査

(平成25年7月～9月期)

平成25年7月～9月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数(景気動向指数)を用いて示している。

平成25年7月～9月期の調査結果では、売上高は少し指数が改善したものの、その他の指数は悪化している。

〈業況〉

業況DIは▲10.4と前回調査に比べて1.8ポイント下降した。業種別では、小売業が12.9ポイント低下の▲57.9、製造業は47.7ポイント上昇の▲40.0、建設業が8.3ポイント下降の▲41.7、サービス業が50ポイント下降の▲25.0、卸売業が40ポイント下降の0.0であった。製造業が大きく上昇した以外は全て下降した。10～12月期の見通しは、全体で▲13.2と7～9月期の実績から2.8ポイント下っている。

〈売上高〉

売上高DIは▲5.8と前回調査に比べて12ポイント上昇している。業種別では、小売業が前回調査と同じの▲50.0、製造業が21ポイント上昇の▲36.4、建設業が25ポイント下降の▲25.0、サービス業が13.3ポイント上昇の▲20.0、卸売業が30ポイント下降の▲50.0となった。製造業とサービス業が共に上昇したのに対して、小売業、建設業、卸売業が低下している。

〈採算(経常利益)〉

採算(経常利益)DIは▲23.5と前回調査に比べて7.6ポイント下降している。業種別には、小売業が▲50.0で前回調査と同じ、製造業が0.0と9.1ポイント下降、建設業が8.3で25ポイント下降、サービス業が▲36.8で8.2ポイント下降、卸売業が0.0で前回調査と同じであった。10～12月期見通しでは、全

体で▲18.8と7～9月期の実績に比べて47ポイント上昇となっている。

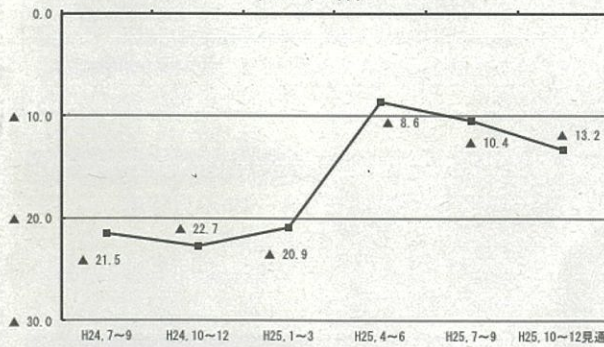
〈資金繰り〉

資金繰りDIは▲20.6と前回調査に比べて15.8ポイント下降している。業種別では、小売業が16ポイント低下の▲33.3、製造業が10ポイント上昇の0.0、建設業が25ポイント下降の▲8.3、サービス業が16.7ポイント低下の▲27.8、卸売業が41.7ポイント下降の▲16.7となった。10～12月期見通しでは、▲17.2と7～9月期の実績に比べて34ポイント上昇となっている。

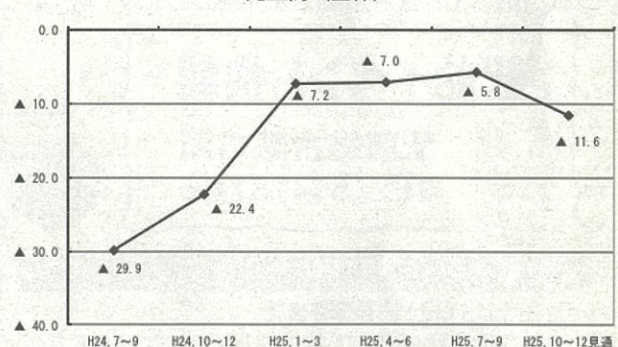
〈その他の意見〉

・高齢者が若い人を教育費や生前贈与でサポートする社会構造ではなく、若い人の所得で高齢者の老後の世話をできる所得分配構造の変化が必要。若い人の所得が伸びないと将来的な需要も伸びないと考えます。
・アベノミクス、オリンピック等で消費が刺激され、景気が向上すると思います。

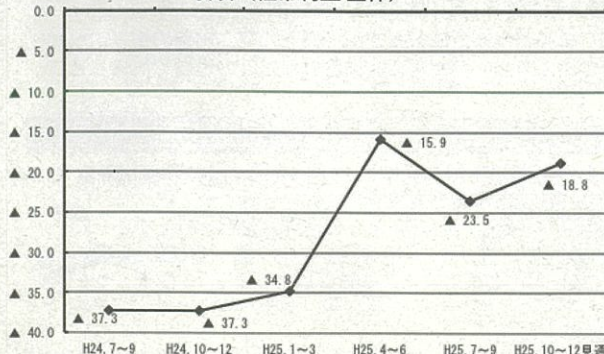
業況 (全体)



売上高 (全体)



採算 (経常利益 全体)



資金繰り (全体)

